

平成28年度

第4回庄原市道徳教育推進委員会研修会

- 日時：平成29年1月24日（火） 14：00～16：35
- 場所：庄原市総合体育館 第2会議室
- 対象者：庄原市内各小・中学校の道徳教育推進教師26名

目的

- ・今、求められている道徳教育の最新の動向について理解を深め、「特別の教科 道徳」の実施に向けて、各校における今後の取組に生かす。
- ・各校における道徳教育の実践を交流し、参考になる点や改善点を明らかにすることを通して、今後の授業改善に役立てる。

講話 「庄原市における道徳教育の現状とこれからの取組」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 赤木 一成
庄原市立高野小学校 教諭 松園 聡



平成28年度市町道徳教育推進協議会参加者アンケート（6月実施）

項目	肯定的回答の割合（％）	
	庄原市	広島県
「道徳の時間」は、「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた多様な指導方法の工夫を取り入れていますか。	67.0	73.2
「道徳の時間」は、児童生徒が自分のことを振り返りながら考えるような指導の工夫をしていますか。	100.0	97.9
「道徳の時間」は、児童生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしていますか。	93.0	96.0
児童生徒は、「道徳の時間」で勉強したことを自分の生活に生かしていると思いますか。	89.0	84.8

【講話の概要】

- 平成28年度市町道徳教育推進協議会参加者アンケートによると、本市においては、「児童生徒が自我関与し考える工夫」、「友達との話し合いを通し意見を深める指導の工夫」、「実生活とのつながり」に関する質問事項において、肯定的な回答の割合がほぼ90%を超えている。しかし、「『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえた多様な指導方法の工夫を取り入れた指導」に対する項目の肯定的な回答の割合は、他の項目に比べて低く、県全体の肯定的な回答の割合よりも低くなっている。今後、更に「特別の教科 道徳」の趣旨の理解を図る必要がある。
- 各校において、道徳の時間の指導の充実、児童生徒の個を見取るための工夫、全面実施に向けた諸計画の見直しを行う必要がある。

【松園教諭より】

- 高野小学校では、次期学習指導要領の全面実施に向けて、内容項目の見直しを行うとともに、新内容項目を取り入れた年間指導計画、別葉の作成を行っている。全職員が共通認識をもち、指導を行うために、改訂学習指導要領で示された内容項目と現行学習指導要領で示されている内容項目の両方を併記するという工夫を行っている。

テーマ別課題実践交流 「各学校における道徳教育の取組について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 赤木 一成



【テーマ別課題実践交流の概要】

○庄原市道徳教育推進委員会研修会では、以下の三つの課題を設定し、各校がその課題から一つ選び、実践を行い、成果や課題を明らかにする主体的な研修を行っている。

- I 「特別の教科 道徳」が目指す授業展開を開発・実践
- II 地域教材資料の開発・活用・改善
- III 「私たちの道徳」の活用

〔成果◎と課題▲〕

◎役割演技や体験的な活動を取り入れることは、児童生徒の道徳性を高めることに有効であった。

◎ワークシートの工夫により、児童生徒の考えを引き出すことができた。

▲切り返し発問やゆさぶり発問を行うが、児童生徒の考えがなかなか深まらない。発問の精度を上げる必要がある。

▲児童生徒の成長をどのように見取るかについて、研修を行う必要がある。

講話 「道徳教育の最新の動向と各校にて取り組むべきこと」

広島県教育委員会 豊かな心育成課 金子 京子 指導主事



【講話の概要】

○今後、児童生徒一人一人の学習状況や道徳性に係る成長を見取り、評価していかなければならない。まず各校で行うべきことは、児童生徒が、「考え、議論できる道徳」の授業を行うこと、それができなければ、児童生徒の成長を見取ることは難しい。そして、多様な評価方法により、児童生徒の道徳性の成長を見取らなければならない。

○「考え、議論する道徳」への転換に向けて、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点からの授業改善が必要である。そのためには、指導者が明確な指導観をもち、児童生徒がねらいを達成できる手立てを多く用意しておかなければならない。

【参加者から】

- ・質の高い道徳教育を目指し、学校全体で取り組んでいく必要を改めて感じた。
- ・評価に係って、ワークシートや振り返り等、児童生徒の変容や深い学びが見取れるような道徳ファイルの作成が必要であると感じた。